

HO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1992. 8. 59号

兵庫教区の第七期連研修了者大会が去る六月二十八日、本願寺会館で、教区内二十五組から七百六十六人が参加して開催された。記念講演では、本山・研修部長の山内教領師が「連

「行動ある念仏者」

第七期連研修了者大会で決意新た

研修了者に望む」と題して、「今日の大会は自分の葬式の発見。それはこのいのちの中でこの次を考える。いのちの源を考えること。働けなくなったらいらぬというような、いのちの使



本願寺会館での第7期修了者大会

むなくすぐるひとぞなき」と説かれる。ポツクリ死にたいの思いであり、そうはいかないのが現実。私の思いと現実の違いが苦を生む。生きてよかったです。考えるのは、自分に埋もれることではなく乗り越えていくことではないか。むなく生きる人生に、大丈夫ですか、と仏様から喚びかけてくださるのが「南無阿彌陀仏」。あると思ってい

八月が来ると思いつく。終戦の年、ソ満国境より本土決戦のため九十九里浜に転戦、米軍の上陸を待つ。東京空襲。大本營、長野県松代に疎開準備中に七月二十五日、ポツダム宣言降伏を迫る。国体護持のため躊躇、広島長崎に原爆投下、八月十五日敗戦、ホッとした思い。自坊に帰院し本堂全焼の瓦礫の中にあらずみ、二十日間早く降伏しておればと今も為政者を怨む。最近、自衛隊国際貢献の美名で主権者の国民に相談もなくPKO可決。数百万の流血によって出来た不戦の誓い、憲法が泣いている。過去には大東亜共栄確立の美名で中国大陸、半島に侵略。従軍慰安婦をつれ聖戦と呼び中国人を殺害した。今また湾岸戦争後、金を出せ人を出せと国際貢献という美名で海外派兵しようとする。日本は今や経済大国、平和ボケしている。決まったら元へ帰れない大切なことだ。仏教徒は団結し自衛隊の海外派兵に反対して過ちを再び繰り返さないよう強く訴えなければならぬ。(佐々木良憲)

教区たより 8・9月

1日(土) 暁天講座「人生は二度死ぬ」本川智暁師 7時	23日(日) 仏壮ブロック研修(丹波・但馬) 枚田岡会館
1日(土) 第一土曜仏教講座 中垣昌美師 1時半	29日(土) 東西保育研修会 第一仏光保育園
2日(日) 暁天講座「救いはいま」太田唯念師 7時	30日(日) 仏壮ブロック研修(姫路・西播) 佐用組法覚寺
3日(月) 暁天講座「聞くということ」宮里哲秀師 7時	31日(月) 本願寺神戸別院改築 総合復興計画ご消息披露 2時
7日(金) 近同推総会・研修会 和歌山	9月1日(火) 総代ブロック研修(姫路・西播) 姫路西組本徳寺
11日(火)~15日(土) 別院盆参り	2日(水)~3日(木) 仏婦委員研修旅行 山口
16日(日)~20日(木) 別院・教務所職員夏季休暇	4日(金) 総代ブロック研修(但馬) 豊岡教室
21日(金) 近畿組長会 建設・推進総務部会 ビハーラ推進部会	5日(土) 総代ブロック研修(丹波) 多紀組光専寺 1時半
	8日(火) 総代ブロック研修(阪神・神戸) 神戸別院

組巡教お待ち受けへ

10/2に朝来組・姫路東組

兵庫教区では、来る九月三十日、十月二日に、第三期即如門主組巡教を朝来組(森田紫雲組長)と姫路東組(小松勝昭組長)でお迎えするが、両組では、その準備が進められている。朝来組の森田組長は「行事寺院は記念事業として修復を行っており、お立ち寄りも組が一丸となって取り組んでいる。予算なども総代会で話し合っていた。町では宿泊施設の改修をすすめるなど、出来る限りの体制を整えたい」と語っている。また、姫路東組の小松組長は「組として会所の行事や法座テーマについて、これから詰めていくところ。限られた時間での巡回なので道順など頭の痛いところだが、全寺院の門信徒が応援できるように考えたい。予算の準備は組の会計で万端整えている」と語り、両組ではお待ち受けの体制づくりが組内の協力によって進められている。

「橋のない川」感想文集

赤穂南組同朋部会が発行

赤穂南組(楠万千雄組長)では、このたび、映画「橋のない川」の感想文集を発行した。これは、「橋のない川」の鑑賞にあたって、差別問題に対する啓発と社会性のある取り組みをしようと、組仏婦会員・総代・仏壮・推進員・住職らに呼びかけ、映画を鑑賞した七十人の中から書かれた感想文を基に、同朋部会が発行したものである。編集に当たった、正覚寺・菅原順道住職は「映画についての学習会を持ちたかったのですが、農繁期なので八月に予定していた組の同朋講座でも取り上げたい」と話している。感想文集のなかから、法光寺坊守・益城昌子さんの

新刊紹介

「仏教とエコロジー」

青木敬介著



著者は網干組西念寺住職であり、「播磨灘を守る会」の人たちと二十数年にわたって、壊され汚される身の回りの環境を見てきた。現場で実際に環境破壊に立ち会った者の視点から、例え

文章をご紹介します。久し振りに映画館の大きなスクリーンで「橋のない川」を鑑賞する機会に恵まれ、監督の製作の基本となっている、差別を受けながら、みずから発光体として輝く人びとの美しさを強く感じとりました。人間は皆平等と人びとは学び、又そのことは学ばなくとも人間として当り前のことなのに、このように差別され、迫害をうけなければならなかった人達の、やり場のない怒り、悲しみ、苦しみを画面で見た時、私ならどうするだろうと自分に問ひかけ、こんな理不尽なことが、長い間にわたって行われてきたことに胸をつく思いがいたします。でも、画面に登場する人びとの人間としての強靱な精神力、思いやり、差別を受けながら失われることのない明るさ、そして、その差別に屈することなく前向きに差別解消に前進する姿に、私は自分の中にひそんでいるかも知れぬ不遜な気持ちをとりに除くこと、そして、個々の差別問題を自分のこととして考え行動してゆくことを、改めて心に誓ったことでした。

ば、昭和五十二年、関電相生火力発電所建設の際の電力不足キャンペーンのからくりやアセスメントの矛盾など、ニュースにならない隠された部分に触れている。前半の「播磨灘の環境破壊」後半の「仏教とエコロジー」を通して、著者の言う「住職としての生き物に仏性があるという視点、人間が勝手に破壊して生き物を殺すことを見過ごさない」行動が伺われる。この本を読んで私達の生活を考え直してみたい。(定価二千円。同朋舎☎〇七五―三四三―〇六八〇)



八月が来ると思いつく。終戦の年、ソ満国境より本土決戦のため九十九里浜に転戦、米軍の上陸を待つ。東京空襲。大本營、長野県松代に疎開準備中に七月二十五日、ポツダム宣言降伏を迫る。国体護持のため躊躇、広島長崎に原爆投下、八月十五日敗戦、ホッとした思い。自坊に帰院し本堂全焼の瓦礫の中にあらずみ、二十日間早く降伏しておればと今も為政者を怨む。最近、自衛隊国際貢献の美名で主権者の国民に相談もなくPKO可決。数百万の流血によって出来た不戦の誓い、憲法が泣いている。過去には大東亜共栄確立の美名で中国大陸、半島に侵略。従軍慰安婦をつれ聖戦と呼び中国人を殺害した。今また湾岸戦争後、金を出せ人を出せと国際貢献という美名で海外派兵しようとする。日本は今や経済大国、平和ボケしている。決まったら元へ帰れない大切なことだ。仏教徒は団結し自衛隊の海外派兵に反対して過ちを再び繰り返さないよう強く訴えなければならぬ。(佐々木良憲)

「人生の目標」浜本さん 吉田さん「失敗と発見」 「門徒として」松本さん 連 研 体 験 発 表 会



体験発表する浜本氏

革するよう努力したいと思
っています。
(浜本晃造さん)

とただホッとして、他の方
のご意見は何ひとつ聞こえ
ていませんでした。「今の
意見についてどう思われま
すか」と聞かれて、赤面い
たしました。その時ハッと
気付いて、話し合いは言い
合うのではなく、「聞き合
う」ことだなどしみじみ思
ったことでした。今、こう
して私の連研を振り返って
みますと失敗と発見の連続
でした。

(吉田美智子さん)

毎回の連研に参加し、浄
土真宗の教義を教わり、親
鸞聖人のみ教えをいただく
念仏者として、日常生活に
おける心構えや作法等の正
しいあり方を指導していただ
きました。お蔭をもちま
して、お念仏の世界の一端
にふれさせていただいたよ
うに思います。また、教団
の一員として、お念仏の輪
をひろげることができると
と担うことのできる門徒と
しての自覚をあらたにしま
した。

講師の先生方、各寺のご
住職の皆様、どうぞ今後と
もよろしくご指導ください。
また、同期の皆様、この連
研の成果を自分自身のもの
にしようではありませんか。

(松本盛治さん)



絵筆を気楽に懸命に

真新しい高松寺の本堂。
正面脇の階段を上がると、
総理大臣賞を受賞した「成
忍」(じょうふん)が掛け
られている。「昭和五十
一年当時の政治の腐敗や社会
の姿を四天王のひとりから怒

少年の絵が取り上げられた。
中学一年の時、初めて油絵
の具を手にし、龍谷大学在
学中に、伝統ある京都市展
初入選。最初に師事したの
は、今の京都美大の教授だ
った太田喜二郎師。

「任職にも変わった人間
がもつとあつて欲しい。二
足のワラジから絵に傾斜し、
ネオンの風景を描いていた
私にとって、宗報・大乗の
表紙を描かせていただいた
ことが縁で、横道が原点に
帰ったようだ。何を描いて
も仏教的なものが入って
く。仏様の加護のおかげで
寺が完成したので、落ちて
きてきた今が「出発点」と意
欲を燃やす。

(広報部)

神戸湊組高松寺住職 谷川真淳さん



り、阿弥陀様は煩惱を抱え
て怒りあつて私達を慈
悲で包んでいてくださつて
いる」と、絵のイメージを
語る谷川住職が絵の世界に
入るきっかけは小学校時代。
5〜6年の時、二年続け
て文化祭の本の表紙に谷川

昭和二十一年、第一回展
展に出品、その後、二期展
などに出品を続け、昭和三十
五年から成徳学園の美術
科専任講師などを勤めたが、
それから十二年間は寺院再
建をせねばと出品は中断。
そのつらかった十二年間の
集積であるネオンの風景を
描いた絵が昭和四十七年、
現代美術家集団展で文部大
巨賞を受賞。また、布教使
として活躍し、昭和五十
一年には宗派からも表彰を受
けた。教区仏婦三十周年大
会、御同朋総結集大会のレ
ジメを飾ったのも谷川住職
の作品。

HOPE

◆6月18日〜19日 第三ブ
ロック青年布教使育成研
修会を和歌山で。教区から茨
木正史(播磨中組最照寺)
清水勤(姫路中組真行寺)
高崎長英(北撰組正光寺)
の三師と担当者出席。研修
テーマは「蓮如上人に学ぶ」
―歴史と時代背景―、講師
は千葉乗隆師(浄土真宗教
学研究所所長)◆19日 本願
寺神戸別院改築・兵庫教区
教化センター設立建設・推
進委員会三役会◆20日 企
画推進室会議を別院で。室
長は山崎一朗師(出石組正
福寺)。本年度の基幹運動
推進について協議◆20日
21日 近畿ブロック新任研
修会・保育大学講座を本山
で。教区内十二の保育園か
ら二十五人と担当者出席◆
21日 仏壮ブロック研修を
別院で。講師は増井浄見師
(赤穂北組浄蓮寺)、和田
宏之師(揖龍東組源徳寺)
真実の宗教・浄土真宗とは
浄土真宗の寺・住職につい
てなど活発な話し合い。ま
た、中尾理事長は、蓮如上

合同研修で「いのち」問う

人五百回忌に向けて、単位
仏士の結成を呼びかけた◆
土基輪番の司婚で、泉井敬
文氏と河智文子さんが別院
で仏前結婚式◆23日 仏婦
ブロック研修を姫路西組本
徳寺で。七百九十三人が参
加。講師は瑕丘大愚師(滋
賀教区蒲生上組即往寺)、
機谷秀昭師(赤穂南組浄専
寺)◆十方会總會を別院で。
新会長は本川智暁師(神戸
中組西方寺)副会長には松
島法城師(多紀組福福寺)
杉本顕俊師(阪神北組光円
寺)と決まる◆24日 仏婦
ブロック研修を姫路西組本
徳寺で。七百九十二人が参
加。講師は瑕丘大愚師、寺本峯
昭師(神崎組真栄寺)◆26
日 仏婦ブロック研修を氷
上東組照蓮寺で。二百二十
二人が参加。講師は都呂須
孝文師(大阪教区島下組光
明寺)応供乗生師(城崎組
清蓮寺)都呂須師は講義の
後、讃歌指導にも同席◆第
三ブロック布教大会を名古
屋別院で。教区から西脇正
文師(揖龍西組超念寺)が
出講◆28日 第七期連研修
了者大会を本願寺会館で(別
記)◆29日 仏婦ブロック

研修を神戸別院で。三百五
十九人が参加。講師は都呂
須孝文師、竹内俊之師(揖
龍東組浄蓮寺)。開会式の
一時間半前には、受付準備
も万全の役員さんたち◆京
阪神都市開発振興金庫・対
策本部会議を津村別院で。
教務所長、担当者出席◆30
日 布教団・青年僧侶の会
研修会を、三宮ターミナル
ホテルで。テーマは「いの
ち―浄土真宗として、脳
死を考える―。布教団副団
長・西脇正文師の進行で、
富外科病院長長・篁俊男師
(富山教区富山組善照寺)
が臓器移植の本質的な問題
として、脳死を個体死と認
められるかなどについて、
岡山理科大学教授・浄原法
藏師(岡山南組浄光寺)が
断片的科学知識の集積でな
く、進化の過程を見つめた
時に知る、いのちの尊さに
ついて、龍谷大学講師・鍋
島直樹師(神戸中組真覚寺)
が宗祖のいのちへの三つの
視点を踏まえて、臓器移植
の問題点について問題提起
することや、医学が資本に利
用されることを危惧する意

別院改築ご認許 センター設立



僧侶研修会(7/1)

見も。布教団總會では、大
西龍雲、佐々木敏雄両師の
相談役就任が決まった◆7
月1日〜2日 正副組長・
組相談員・教区推進委員合
同僧侶研修会を有馬で。研
修資料「御同朋の社会をめ
ざして」をテキストに、問
題提起と班別討議。「教義
理解を問うことが最大の課
題」と岩本孝樹中央相談員

見師。「莊嚴は住職さんが
はっきり指導して欲しい」
という意見も◆7日 別院
仏婦定例法座。講師は宝池
龍祥師(多可組正福寺)◆
7日〜8日 第三ブロッ
ク布教使研修会を岐阜別院で。
教区から九人が参加◆9日
寺婦ブロック研修を城崎
組照満寺で。三十七人が参
加。講師は鈴木善隆師(滋
賀教区野洲組明楽寺)、高
崎長英師(北撰組正光寺)
◆10日 寺婦ブロック研
修を神戸別院で。七十三人が
参加。講師は鈴木善隆師、
谷川弘顕師(神戸湊組高松
寺)◆12日 滋賀教区護法
組正福寺から仏婦・日校四
十人が別院団参◆13日 寺
婦ブロック研修を姫路中組
光源寺で。百五十五人が参
加。講師は鈴木善隆師、和
田宏之師。「聴聞するときは
明るい顔で」と鈴木師。
寺婦ブロック三会場での、
青少年育成基金募金額は
十七万六千五百三十円とし
た◆14日 ビハラ実践活
動会員總會を別院で。第五
回ビハラ研修会は、十月
二十七日、奈倉道隆師を講
師に迎え、別院で開催され

ます◆14日〜16日 別院常
例法座。講師は和田智浄師
(揖龍東組源徳寺)◆15日
建設・推進委員会財務部
会、常任委員会を別院で。
七月十三日付けで、ご認許
になったことが報告され、
募財依頼額、勧励要項、ご
消息披露などの協議で承認
◆19日 ビハラ実践活動
研究会員ら十一人が、まど
か園五周年記念行事に参加
◆20日 企画推進室会議を
別院で◆21日〜22日 仏婦
連盟幹部一泊研修会を別院
で。土基所長が基調講義し
続いて班別話し合い。二日
目は、晨朝前に別院の清掃
を行う◆22日 組長会を別
院で。僧侶研修の実施予定
などについて報告と、建設
・推進常任委員会での承認
事項についての説明。ご消
息披露は、八月三十一日、
別院で行われる予定◆22日
〜23日 近畿同朋寺族婦人
研修会を山科別院で。教区
から八人が参加。「親鸞さ
まと歩む道」というテーマ
で、長島愛生園真宗同朋会
導使・藤井善師、近同推副
会長・森本覚修師の講義と
話し合い。